

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音

田中 徳広さん

ご当地牛乳・乳製品特集

管理部だより／

スマートデバイスの業務利用

ー 組織体とスマートデバイス導入 ー

全国酪農青年女性会議 平成25年度研修会



酪農トピックス／

鹿本酪農農業協同組合(有)ティ・エッチ・ファーム 谷 秀則さん・珠美さん
「第52回農林水産祭 畜産部門天皇杯受賞祝賀会」開催される(福岡)ほか

日本酪農見て歩紀(北海道豊富町 柳楽牧場)
人事異動

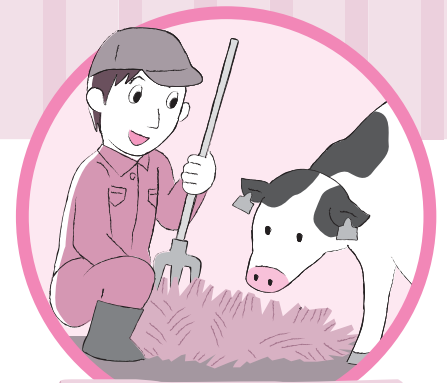


2

2014 February No.581



全国酪農農業協同組合連合会



若手後継者の

本音

Vol.6

家族労働型の 堅実な酪農経営を目指す

石川県河北郡内灘町 田中 徳広さん



田中徳広さん

牧場の概要

田中牧場は、石川県酪農業協同組合（林友次代表理事組合長）に所属し、経産牛74頭、搾乳牛65頭を飼養しています。また、県内放牧場に育成牛40頭ほどを預けています。

主に酪農経営に携わっているのは、経営主の徳重さん（72歳）、奥さんの真理さん（65歳）、長男の徳広さん（35歳）の3人です。

今回は、田中牧場の後継者として日々頑張っておられる徳広さんにお話を伺いました。

就農のきっかけ

徳広さんは、中学・高校と大好きな野球に打ち込み、熱き青春時代を過ごしてきました。しかし、その当時から酪農に取り組む父（徳重）の背中を見て育った徳広さんは、いつか



牛舎正面



牛舎全景



▲▶牛舎内部



現状と今後の目標について

きつとそんな父の力になればとの思いを、ずっと持っていたそうです。このことは「子は親の姿を見て育つ」という諺と同様だと言えるでしょう。

高校を卒業後は、近隣の酪農家さんの紹介もあり北海道で2年の酪農家実習を行い、さらに先進的な酪農技術の習得をめざし米国ウイスコンシン州で1年間の酪農実習を経験し、21歳で田中牧場に就農することになりました。

現在は父・徳重さんとともに厳しい酪農環境下ではありますが、家族

で力を合せて酪農経営に取り組んでいます。

今後は生乳の品質向上がさらに求められることで、牛舎内外の環境整備や改善等、多額の資金は投入できませんが、やれることから取り組みたいと考えています。

また、牛個々の能力アップを目指し、平均乳量を引き上げることや、雌雄選別精液を有効に活用して後継牛を確保することにより、酪農経営の安定化につなげたいと考えています。

徳広さんは、日々忙しいなか、地元農業普及所、農業関係団体等の開催する研修会・勉強会にも参加し自

己研鑽も疎かにはしていません。

今回の取材の中で、徳広さんに「酪農の良いところ」は何かと伺ってみました。すると「牛は結果を出してくれる」との言葉が返ってきました。このことは「人が誠心誠意を持って牛に接すれば、牛は良い結果を出してくれる」、人間も牛も同じなんだなとあらためて強く認識いたしました。

課題と将来について

徳広さんは、父・徳重さんも高齢となり、近い将来には「労働力の確保」が重要な課題になると考えているとのこと。また、これからの酪農を取り巻く情勢を考えると規模拡大等への多額の資金投入はせず、「家族労働型の堅実な酪農経営」を今後も維持していくことが重要だとも考えておられます。

「経営改善にはやらねばならないことが多いが、出来ることから1つずつ着実に取組み改善して行きたい」と、力強くおっしゃっていました。頼もしい後継者の今後の取り組みに期待がかかります。

取材当日は、小雪が舞うとても寒い日でしたが、取材終了時にはすっかりとした晴れ間ものぞき、今後の明るい田中牧場を示すかのように感じました。



子牛用ヒーター



子牛ハッチ



ご当地

牛乳・乳製品 特集

日本各地に様々な種類がある牛乳・乳製品ですが、他地域でどのような商品があるかご存知でしょうか？ご当地でしか食べられない牛乳・乳製品をご紹介します！と立ち上がったこの企画。今月号は東京支所管内の商品をご紹介します。

佐渡牛乳「クリーンミルク生産農場」限定

価 格：1000ml 224 円、500ml 152 円、300ml 110 円、200ml 80 円（全て島内価格・税込）

製造者・販売者：株式会社 佐渡乳業

E-mail：sadonyugyo@leaf.ocn.ne.jp

URL：http://sadonyugyo.com 問い合わせ先：0259-63-3151

購入可能場所：首都圏 新潟物産館（ネスパス）・丸の内佐渡特選館・新潟県内 新潟三越・伊勢丹・大栄魚類けんこう市場・櫛百笑市場・佐渡島内 量販店 ※ネット販売も承っております。

内容量：200・300・500・1000ml
原材料（成分表）：生乳 100%



アピールポイント

- 佐渡では、約 350 頭の乳牛が飼育され、毎日約 5.5t の生乳が、その日の内に工場に搬入されます。
- 公益社団法人新潟県畜産協会では、高度な衛生管理を取り入れて飼養する農場を推奨しており、その認定された酪農家は「クリーンミルク生産農場」と称され、佐渡では安全・安心な畜産物をお届けするために全酪農家がその認定を受けています。
- 佐渡産 100% の生乳で製造し、佐渡の潮風を感じさせる優しい風味を醸す逸品です。
- 「トキ」にちなんで「トキバック牛乳」の愛称で親しまれております。

那須だいすき牛乳

価 格：1000ml 242 円（税込）、500ml 149 円（税込）

製造者・販売者：酪農とちぎ農業協同組合

http://www.rakunoutochigi.com

問い合わせ先：0120-009-038

購入可能場所：東京ソラマチ
とちまるショップ、スーパー
アルプス、公正屋、JR 宇都宮
駅駅の市場、JA しおのや農
産直売所さくら店、ヨークベニ
マル西那須野店、農産直売所
あぜみち、菜っ葉館、JA はが
の農産直売所あぐりっ娘等

内容量：1000ml、500ml
原材料（成分表）：生乳 100%



アピールポイント

- 栃木県的那須地方は大自然の宝庫です。そこで育てられた乳牛から、毎日搾られる生乳を県内の乳業工場でパック詰めしています。新鮮で上品な味、そしてクリーミーで甘味のある牛乳です。

酪農家限定那須牛乳

価 格：238 円（税別）

製造者・販売者：栃酪乳業株式会社

http://www.tochiraku.jp/products/product.html

問い合わせ先：栃酪乳業株式会社業務課
028-663-4516

購入可能場所：宇都宮東武百貨店・カスミ
トア・栃木県内ヤオハンスーパー等

内容量：1000ml
原材料（成分表）：生乳 100%



アピールポイント

- NON-GMO（遺伝子組換え原料を含まない、またはその割合が極めて低いと認められた）飼料を給与している限定酪農家の生乳のみ使用しています。

八千代ミルクジャム

価 格：650 円（税込）

製造者・販売者：千葉北部酪農農業協同組合

http://www.yachiyo-milk.or.jp

問い合わせ先：047-450-4411

購入可能場所：道の駅（八千代市、野田市）、ネット販売（ご馳走 net）、生協（東都生協、ナチュラルコープヨコハマ、なのはな生協、大地を守る会など）で不定期企画

内容量：125g
原材料（成分表）：牛乳、生クリーム、砂糖



アピールポイント

- 千葉県産の牛乳と生クリームに砂糖を加え、ゆっくり時間をかけて煮詰めて作った、濃厚でミルク感たっぷりの手作りのジャムです。
- 焼き立てのパンにはもちろんのこと、スコーンやワッフルにぬってお召し上がりください。また果物やアイスクリームに添えても美味しく召し上がれます。

スマートデバイスの 業務利用

組織体とスマートデバイス導入



1 はじめに

最近、「スマートデバイス」っていうキーワードを聞いたことありませんか？

直訳すると「賢い装置」となりますが、要はスマートフォン、タブレットなどの総称です。スマートフォンはiPhoneやAndroid携帯、Windows携帯など、タブレットはiPadやAndroidタブレットなどのことで、これらを全部まとめて、スマートデバイスと言います。

では、スマートデバイスの対義語は何でしょう？「賢くない装置」？あるいは「馬○な装置」？まあ、強いて言うならダムデバイスでしょうか？携帯電話というとスマートフォンじゃない普通の携帯電話はフィーチャーフォンとかダムフォンと言いますから。日本では「ガラケー」(日本独自の文化で進化したと言う意味で)ガラパゴス携帯の略語の方が一般的ですね。

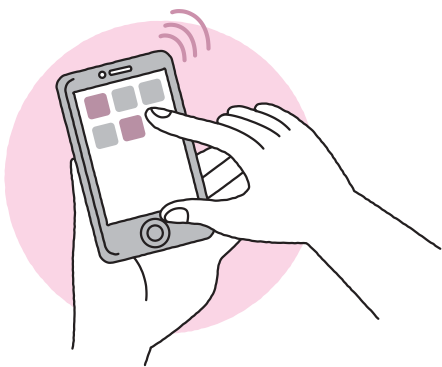
さて、前置きが長くなりましたが、本稿では、組織体とスマートデバイス導入というタイトルを付けましたが、主旨としては、「スマートデバイスって(超)便利なのに、なぜ仕事で使いにくい(使われにくい)のか」をテーマにし、スマートデバイスの業務利用について考えていきます。

2

スマートデバイスと モバイルパソコン

スマートデバイスと言うと、モバイルユース(移動中、移動先での利用)を連想しますね。首都圏など大都市で電車に乗ると、乗客の大半がスマホ(スマートフォンの略語)などのスマートデバイスを使っています。一昔前には、ノートパソコンを使っている人を見かけたものですが、今では1両の電車に1人いるかどうかでしょう。

仕事上のモバイルユース要件で、最もポピュラーな要件は、メールチェックだと思われます。スマホとモバイルパソコンでメールチェック



のプロセスを比較すれば、圧倒的な差が歴然とします。

●一般的にスマホの場合は、取り出して、画面ロック解除、メールアプリを起動し、ログイン、閲覧の為にフォルダか更新ボタンをクリックすればメールが読めます。概ね30秒位でしょう。

●モバイルパソコンでは、パソコンを取り出して、電源ON、場合によってはベンチなどを探す必要があるかも知れませんね。起動に数分かかって、パソコンにログイン、ログイン後にデスクトップが表示されるまで、また数分、通信カードをセットして、アクセスポイントに接続するまで数十秒、メールソフトを立ち上げて、受信ボタンをクリックして、メールを読みます。概ね2〜8分位でしょう。

モバイルユースにおけるメールチェック、という機能面では、どちらも同じ(添付ファイル、容量などでは、差が出る)ですが、スマートデバイスを使ってメールチェックしたいという要(願)望は、この圧倒的な時間差と手間暇の差によるものと言ってよいでしょう。さらに、急ぎで大事なメールが来るのが判っているような場合、スマホでは「プッシュ配信」や「リマインダー」の設定を行っておけば、メールが来たことがタイムリーに判り

ますが、モバイルパソコンでは、一定間隔で立ち上げて受信するしかありません。このようなタイムリーな利便性も時間差と捉えれば、メールチェック以外の要（願）望も圧倒的な時間差と手間暇の差に集約されるのではないのでしょうか（プッシュ配信…通常はメールサーバーに接続、ダウンロードすることで、メールを受信するが、プッシュ配信の設定を行うことで、強制ダウンロードする機能。リマインダー…メールサーバーにメールが届くと、音や振動で知らせる機能）。

ところで、スマホの場合は圧倒的な時間差が出るようですが、タブレットではどうでしょう？取り出して、画面ロック解除、メールアプリを起動し、ん？「僕のiPadはWiFiタイプだから、モバイルルーターの電源入れなきゃ…」というプロセスが入る場合があるかも知れません。そう、タブレットの場合は回線契約ができるタイプとそうでないタイプがあります。別の言い方をすれば、スマホは回線契約ありき、なのです（WiFi…無線LANの愛称「ワイファイ」）。回線契約と言いましたが、デバイス自身が単独でインターネットに接続する「通信機能」を実現するためキャリア（docomo・au・softbankなどの通信業者の

こと）と契約することです。契約するとSIM（シム）と呼ばれる小さなチップが渡されますので、スマートデバイスに挿入して使用します。スマホは元々が携帯電話ですので、当たり前前に回線契約してる訳です。回線契約ができないタイプのタブレットには、SIM（シム）を挿入するスロットが付いていません。

ここで、気づいて頂きたいのは「圧倒的な時間差」を生み出すのはスマートデバイスでは無く、デバイス自身が「通信機能」を持っているかどうかです。メールチェック機能に絞れば、ガラケーでも圧倒的な時間差は生み出せます。

では、別のシーン、メールの送信を考えてみましょう。

工作上、受信したメールに返信したり、新規メールを送信したりする場合はどうでしょう。スマホから送信することは、もちろん可能ですが、スマホにビジネス文章を打込むのは少ししんどいかも知れません。急ぎ返信が必要な場合、ビジネス文章にはモバイルパソコンが有利なので、筆者の場合はメールを受け取った旨の短いメールをスマホで送信しておき、後で正式版をモバイルパソコンから返信する方法で対応するでしょう。

3 スマートデバイスはどこがスマートか

「通信機能」を持ったタブレットは、通話ができないこと以外、ほぼスマホと同じと考えて良いでしょう。大きさが重さが違うので、電池の持ちが良いですし、画面の文字も大きく見やすいです。これらスマートデバイスに「スマート」を名乗らしめているのは、やはり「アプリ」でしょう。

iPhoneならアップルストアから、Androidならグーグルプレイから、様々な「アプリ」をダウンロード、インストールし、アプリの数だけ機能を享受できます。「アプリ」とはアプリケーション、つまり、プログラムのことでゲーム、無料電話、メッセージ送受信、ファイル共有、メール、地図、ソーシャルネットワーク、動画再生、家計簿など、あらゆる分野のアプリが用意されています。

スマートデバイスを新規に購入したときは、最初からインストールされているアプリもありますが前述のように後からインストールもできます。これらアプリには、仕事上で役に立つものも少なくありません。たとえば、スケジュール管理やファイル共有、IMAPメーラーなどです。

ここで、スマートデバイスを使い

Aさんの仕事の動き

職業：個人事業者（ウェブデザイナー、ホームページ請負作成などをしている。）

スマホ	→ iPhone5	メールチェック、顧客との電話、iPad にテザリングを提供
タブレット	→ iPad	顧客先でのウェブページ説明やプレゼンテーション
パソコン	→ Mac air	事務所でウェブページ作成、業務ドキュメント作成

※事務所は光回線で宅内は無線LAN、iPadはWiFiタイプ
※テザリング：スマートフォンをモバイルルーターにする機能



こなす架空の人物、Aさんを想定してみます。

Aさんはウェブデザイナーなの



で、仕事柄インターネット技術には詳しく、スマホやタブレット、事務所パソコンにiCloudの設定全般を施して、スケジュール管理、ファイル共有、メール共有を行っています。すると、こんな感じの仕事の動きになります。

●朝、事務所でパソコンを使って今日のスケジュール確認中、顧客Bからの電話。決めた打合せの日程をスケジュールに追加した。

●今日、ウェブページ説明を行う顧客C向け資料の一部をパソコンで修正。iPadを持って出発

●顧客C先でiPhone5のデザ

リング機能をON、iPadを使って修正箇所を説明。顧客Cから修正箇所を元に戻す依頼があったので、iPadを使って元に戻す。

●引き続き、顧客Cが売り出そうとしている、新ブランドのプロジェクタ会議に参加し、新規ホームページデザインについて、ホワイトボードで討論。ホワイトボードをiPhone5で撮影して終了

●帰路、顧客Bから今朝決めた打合せ日程を1時間早くしたいと、eメールが入り、iPhone5でスケジュールを変更した。

●事務所に帰って、顧客C先で撮ったホワイトボードの写真をパソコンで印刷。今回のプロジェクタ会議の議事録作成を行った。

という感じです。iPhone5、iPad、パソコンではダウンロードもアップロードもしません。パソコンでスケジュール変更すれば、iPhone5のスケジュールも変更されます。これは、iCloud（クラウド・アップル社が一般向けに提供する無料のクラウドサービス）を使って実現しています。要はiPhone5、iPad、パソコンともiCloudに保管されているデータを参照・更新している訳です。

でも、かつこよく、スマートな感じですね。

4 クラウドサービス

スマートデバイスとアプリを使うと余りにも簡単にクラウドサービスにアクセスできます。アップル社のアイクラウド、グーグル社のグーグルドライブ、マイクロソフトのスカイドライブ、ファイル保管の草分けドロップボックスなどがあります。前述の想定の場合、Aさんは個人事業者ですから、あまり問題にはしてないのですが、会社や組織の業務データを前述のようなクラウドサービスに保管することは如何なものでしょう。

自社の安全管理の手が及ばない、他社の管理下にあるコンピューターに業務データがあることになりま

す。保安管理責任者や経営責任者の立場であれば、そんなことが是認できるわけがありません。

自社専用のクラウドサーバーと自社専用のアプリを用意できれば別ですが、全く費用対効果の出ない投資になります。

クラウドサービスを使えば、今見ている景色を写真にとり、メールで送らなくても地球の反対側にいる家族と共有することが、簡単にできます。素敵な使い方ですが、個人利用

に留めましょう。

5 Windows 8について

蛇足になりますが、2012年10月に発売されたWindows8、ビジネス向けの導入はあまり進展していないようです。タブレットとパソコンを融合したため、使い方で戸惑いの声が多く聞かれるため敬遠されているように思われがちですが、実際は、スカイドライブ（マイクロソフトのクラウドサービス）が標準でインストールされており、いつでも使えるようになっていいるからだと思います。

個人的には良いOSだと思います。Windows7より軽快に動作する感じですし、プレインストール版のWindows8マシンは電源ボタンを押してからログイン画面が表示できるまでに8秒しかかかりません。

6 終わりに

いかがでしたでしょうか。「スマートデバイスは便利なのに、なぜ仕事で使われにくいのか」の理解の糸口にもなれば、幸いです。また、機会があれば寄稿したいと思います。

東京
支所発

「関東甲信越酪肉経営技術研究会 平成25年度秋季研修会」 — みちのくミルク、ミネロファーム、バイオワークス視察 —

関東甲信越酪肉経営技術研究会（赤羽秋平会長／伊那酪農協）では、毎年秋季研修会を開催しています。昨年は大阪の食肉市場などの視察でしたが、今年は11名が参加し、初日に宮城県の「みちのくミルク」の牛乳工場、2日目に福島県の復興牧場であるミネロファーム、3日目に同県天栄村のTMR飼料工場を視察しました。

2日目の「ミネロファーム」は皆さんもご存知の通り、原子力発電所の事故に伴い、酪農の継続が困難になった方々が共同経営をしている牧場です。農場経営管理責任者の田中さんや事務局長補佐・広報担当の増子さんに農



▲ みちのくミルクの牛乳工場前にて

場を案内していただきました。共同型経営は個人経営と比較して、各自の負担が減り、土地や設備、乳牛への投資が可能となり、生乳の生産量を拡大することで経営の安定化が図れることが最大の強みとのことです。平成25年12月8日現在の状況として、搾乳牛頭数118頭、出荷乳量3,440kgということですので、かなり生産性の高い管理をされていると感じました。

3日目はバイオワークスのTMR工場視察でしたが、いわゆる「ウエット飼料」と呼ばれている水分の高い飼料を組織的に製造、供給しており、特に「カビ対策」については、豊富な経験を元に改良を進め、クレームの少ない製品の供給を実現するなど、大変参考になる部分が大いにありました。

以上、大変有意義な研修となりましたが、視察に何かと協力をいただきました方々にこの場をお借りして深く御礼申し上げたいと思います。（S.T）

本所発

本会酪農部が商品をPR！

— (株)日本アクセス東日本2014年春季展示商談会 —

1月22日(水)～23日(木)、さいたまスーパーアリーナにて(株)日本アクセス主催の東日本2014年春季展示商談会が開催されました。今年も数多くの食品会社が参加し、小売関係者向けに新商品を含む自社商品をPRする機会となりました。どのブースも看板やキャラクターなどの装飾で年々豪華になっており、約1万人の来場者で賑わっていました。

本会酪農部も昨年に引き続きブースを出展し、パッ

テージをリニューアルした『おいしいスモークチーズ ガーリック&バジル味』を始めとする商品をPRしました。パッケージも中身もご好評いただき、大盛況でした。輸入原料チーズ相場価格の高騰や国内乳価の値上げに伴い、各社は容量変更を含む実質値上げを行うと発表していますが、今後とも乳製品の変わらぬご愛顧をお願いいたします。（K.S）



会場では今年の乳製品予想もされていました ▶

◀ 本会商品をご紹介します



◀ パッケージを
リニューアルしました



▲ スモークチーズをPR

本所発

「暮らしに役立つ大人の食育」で 牛乳・乳製品の重要性を再確認！



1月15日(水)、関連5団体（全開連、全畜産、日鶏連、日園連、本会）で構成される専門農協協議会（事務局：本会）主催の平成25年度研修会が全酪連本所にて開催されました。今回は「暮らしに役立つ大人の食育」と題して、料理家・管理栄養士の小山浩子氏をお招きし、講演頂きました。

■ 減塩には牛乳！

日本人の死因の1位はガンですが、2位の心臓病、3位の脳卒中はいずれも血管に障害の起こる病気で、高血圧が最も重要な危険因子。高血圧の方は現在4,300万人と、他国に比べてとても多いそうです。その大きな理由は、和食。和食には食塩が多く含まれ、日本人は平均10.5g/日（摂取上限目標 男性9.5g、女性7.5g）摂取しています。減塩したいが、減塩料理は味気ない…ということで、小山講師が思い至ったのが「乳和食」でした。牛乳を足し、塩分が多い味噌、醤油等を少なくすることで美味しく減塩でき、さらに牛乳中のペプチド、カルシウム、マグネシウムが血圧上昇を抑える働きがあるそうです。小山先生によると、日本由来の調味料と牛乳の相性はとても良く、いろんな料理に使えとのことでした。

■ 腸を若返らせよう！

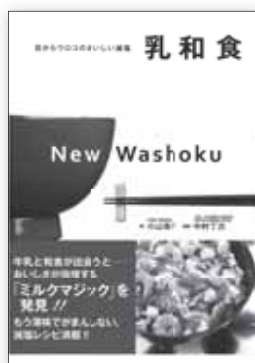
さらに、加齢により身体は日々老化していきますが、唯一若返らせることができるのが「腸」であると話されました。腸内細菌は、善玉菌、悪玉菌などがありますが、一般的に40代から悪玉菌が増加し、70代では悪玉菌の量が善玉菌の量を超えてしまうそうです。そのため、①善玉菌の代表である乳酸菌を摂取すること、②悪玉菌が増えすぎないようにお肉を取り過ぎないこと、③pH調整のためお酢の摂取を心がけるようアドバイスを頂きました。また、乳酸菌が多く含まれるヨーグルトも、メーカーによって菌の種類が異なるため、自分に合ったヨーグルトを見つけることも大事とのことでした。便の状態も、腸内環境をチェックできる指標のため、確認を行うよう助言を頂きました。

ちなみに、日本人の1日あたり牛乳消費量は100mlを少し越える程度であり、最も飲む世代は60代、骨形成に一番重要な10代の消費量が減少しているとのこと。牛乳が、飲料としても食物としても健康には重要であることが再認識できた研修会となりました。

(K.S)



◀▼ 講演の様子



◀ 小山浩子氏の著書
「目からウロコのおいしい減塩乳和食」(主婦の友社 発行)



質疑応答 ▶

大阪
支所発

「東宇和酪農創始70周年記念大会」開催される

12月20日(金)、愛媛県西予市野村町において「東宇和酪農創始70周年記念大会」が開催され、西予市内の酪農家及び来賓、関係機関含め127名が一堂に集結しました。

冒頭、田中 宏佳会長（東宇和酪農経営者協議会）は挨拶にて「東宇和酪農は70年前、第2次世界大戦戦中の昭和19年に、24戸の農家が静岡県より25頭の乳牛を導入され、酪農先駆創始者の不屈の決意と努力により今日県下最大の酪農団地に発展致しました。これまでの歴史において乳価低迷や乳価闘争、生産調整を繰り返し農畜産物輸入自由化の荒波にもまれ、口蹄疫、BSEの危機も、幾たびもの組織編成を経て、この団結力で乗り切ってまいりました。また我々は今後、日本農業を根幹から揺るがし、過去に例を見な



▲ 田中会長

い最大の試練になるであろうTPP問題の行く先を見据え本日の記念大会を契機に、新時代に対応した経営改善を図り、更なる発展、活性化を目指し地域の基幹産業として頑張っていく覚悟であります」と述べられました。その後の式典では各酪農家の意見交換が活発に行われた他、創立後の70年間に綴った映像上映や昨年11月全国BWショウでのグランドチャンピオン受賞の瞬間のビデオ上映、また平田将三副会長（愛媛県酪農、経営者協議会）司会のもと、記念大抽選会が行われるなど大盛況のうち無事閉幕いたしました。



▲ グランドチャンピオン表彰を受ける入船篤志氏

(O.S)

福岡
支所発

鹿本酪農農業協同組合(有)ティ・エッチ・ファーム 谷 秀則さん・珠美さん 「第52回農林水産祭 畜産部門天皇杯受賞祝賀会」開催される

去る平成25年12月8日(日)、熊本県「山鹿ニューグランドホテル」において、熊本県酪農農業協同組合連合会（吉田孝壽代表理事会長）管内、鹿本酪農農業協同組合（隈部洋代表理事組合長）所属の(有)ティ・エッチ・ファーム、谷 秀則さん・珠美さんの「平成25年度（第52回）農林水産祭天皇杯受賞祝賀会」が開催されました。

(有)ティ・エッチ・ファームは、経産牛飼養頭数120



▶ 谷 秀則さん・珠美さん

頭、年間出荷乳量は120万kgと県内有数の経営規模を誇っております。経営主の谷 秀則さんは、昨年度まで鹿本酪農協の代表理事組合長を務められました。地域の耕種農家やコントラクターと連携し自給飼料を確保、高品質TMRを低コストで生産し所得の増加に繋げていること、昨今の飼料高騰の中にあっても、耕畜が共存共栄を達成する地域の優良モデルになる普及性の高い事例として高い評価を受けての受賞となりました。

当日は熊本県酪連、鹿本酪農協役員並びに関係団体等、約50名が出席のもと盛大に開催され、祝賀会発起人代表として隈部組合長が挨拶され、祝宴の幕が開きました。会場内では出席者の皆さんが共に受賞の喜びを分かち合い、大いに盛り上がりました。

同賞の受賞は熊本では9年ぶりの事で、同県の酪農にとっても明るいニュースとなりました。谷ご夫妻並びに(有)ティ・エッチ・ファームの益々のご発展を祈念申し上げます。

(Y.K)



▲ご家族の写真(右から母勝子さん、雅秀さん本人、次男翔吾さん、奥様の裕子さん、長男大樹さん、従業員の無量谷さん)

No.249

なごら
柳楽牧場

北海道豊富町

牛の健康を第一に考え、

無理のない作業体系で余裕をもった酪農経営を

地域の概況

広大なサロベツ原野国立公園を有する天塩郡豊富町。およそ200kmに及ぶ湿原の先には、日本海に浮かぶ利尻富士(標高1,721m)を望み、雄大な風景を堪能できます。日本最北端の稚内市から約40km南に位置し、夏は冷涼で過ごしやすく、冬は寒風吹き荒ぶ寒さの厳しい土地でもあります。

昭和初期に石炭の採掘が始まり、およそ半世紀にわたり炭鉱の栄えた



サロベツ原野より望む利尻富士

町です。現在は酪農・漁業・林業といった産業が主体となっています。町内にある豊富温泉は、日本最北端の温泉郷として知られ、観光客や湯治客が多く訪れています。

柳楽牧場が所属する北宗谷農業協同組合(高谷優代表理事組合長)は、酪農家戸数212戸、生乳生産量106,482t(平成24年度実績)となっており、宗谷管内で最大の生産量を誇ります。町内には(株)豊富牛乳公社があり、町内の生乳が集荷され、豊富牛乳として大手スーパーや道内コンビニチェーンにて販売されています。

牧場の概況

柳楽牧場の家族構成は、経営主の雅秀さん(43歳)、奥様の裕子さん(42歳)、両親の覚夫さん(73歳)、勝子さん(72歳)、長男の大樹さん(17歳)、次男の翔吾さん(15





柳楽牧場全景

（歳）の6人家族です。作業全般を雅秀さん夫婦と従業員1名が、育成管理をご両親が担当しています。夏季の採草時期にはさらに1名の季節雇用を行っています。10年前に育成乾乳舎を建て、3年前につなぎ牛舎増改築を実施しました。現在では経産牛90頭、育成牛80頭を飼養し、平成25年の年間生乳出荷量は801tでした。長男の大樹さんは自宅から130km離れた名寄市内の高校で寮生活を送りながら、酪農を学んでいます。取材当日は学校が冬休みで、家族全員が揃って牛舎作業をされていました。



旧牛舎

柳楽牧場の歴史は、島根県出身の祖父（時次郎さん）が、昭和15年に豊富町にて、1頭の乳牛を搾り始めたことから始まります。祖父は当時稚内市内にあった福沢牧場（福沢諭吉の娘婿桃介が経営していた）で酪農経験を積み、豊富町にて独立されました。

その後雅秀さんの両親が経営を引き継ぎ、草地を拡大しながら過度な設備投資を極力抑え、着実に搾乳頭数を増やしてきました。そして今から30年前にパイプライン搾乳が導入されました。

長男である雅秀さんは、毎日牛舎に入り両親の作業を手伝っていました。

柳楽牧場の歩み



新牛舎

た。小さい頃から両親の酪農経営を受け継ぐことに大きな関心を持っていたようです。帯広農業高校酪農科を卒業後は、アメリカで半年間の酪農実習を経験し、実家を継ぎました。当時は経産牛40頭の規模でした。

豊富な草地を有効利用する

柳楽牧場は牧草地をおよそ80ha管理し、約7割を採草地（チモシー主体イネ科牧草）として、約3割を放牧地（ペレニアルライグラス主体イネ科牧草）として利用しています。牧草は年に2回刈り取り、細切サイレージ・ロールサイレージ・乾草ロールにします。北海道では乳牛に給与する粗飼料のほとんどが自給粗飼料で賄われており、牧草の品質が1年



温湿度計



改築後の牛舎内部

間の乳生産を左右するといっても過言ではありません。施肥管理・適期収穫には特に注意を払い、天気とにらめっこしながら良質粗飼料の確保に取り組んでいます。

また草地管理において雑草混入は



全道共進会にて

大きな問題です。ここ数年、離農跡地を購入して牧草地を増やしてきましたが、毎年同じ面積の草地更新では、雑草の繁茂に追いつかなくなってきました。そこで今では毎年圃場面積の1割以上を草地更新する計画を立て、植生改善に取り組んでいます。収穫作業や機械整備は、従業員や酪農ヘルパーの協力のもと進めています。

放牧地には毎年5月から10月の間、牛を放牧します。80頭の搾乳牛を2牧区に分けて、昼間5時間放牧します。牧草をしっかりと食い込ませるほか、運動・日光浴を目的としています。これらは乳牛の健康増進には欠かせません。しかし近頃は、夏の気温が30℃近くに達する日が増え、湿度も高く、放牧できない日が増えてきていることが悩みの種です。



夏祭りでの乳製品普及活動

つなぎ牛舎の増改築工事はちよつとユニークなものでした。柳楽牧場の旧牛舎は2階建て牛舎と平屋牛舎から成っていました。まず平屋牛舎部分を解体・改築し、その後2階建て牛舎を解体・改築しました。工事期間中は搾乳牛を育成乾乳牛舎や放牧地に移動させ、入れ替え搾乳を実施しました。おかげで牛のストレスを軽減しながら、工事期間を無事終えることができました。

床面のコンクリートと中央の通路幅は旧牛舎のままですが、牛床と飼槽の幅を広くし、牛舎の幅は5間から6間半へ約2・7m広くなりました。牛床マットを設置したことにより、飛節の腫れがなくなり、寝起き

牛舎の増築にもひと工夫

H C(ジュニアホルスタインクラブ)

地域の活動を通して

大樹さんと翔吾さんは、豊富町JHC(ジュニアホルスタインクラブ)に加入しており、雅秀さんはクラブの会長を務めています。豊富JHCは平成2年に設立され、20年以上の活動実績を誇り、多くの先輩方が酪農後継者として活躍されています。

昨年9月には親子で北海道ホルスタイン共進会場で開催された全道共進会にて、改良について学びました。その他、地域の夏祭りやチーズ販売を通して乳製品普及活動、夏休みにはボーリングや海水浴、冬休みには体験などを通して会員同士の交流を深めています。雅秀さん自身はこれまでも、地元農協の同志会や青年部活動を通して、地域とのつながりを重視してきました。今後これらの活動が若手後継者に引き継がれていくことを願っています。



豊富町JHCのキャンプにて

最後に

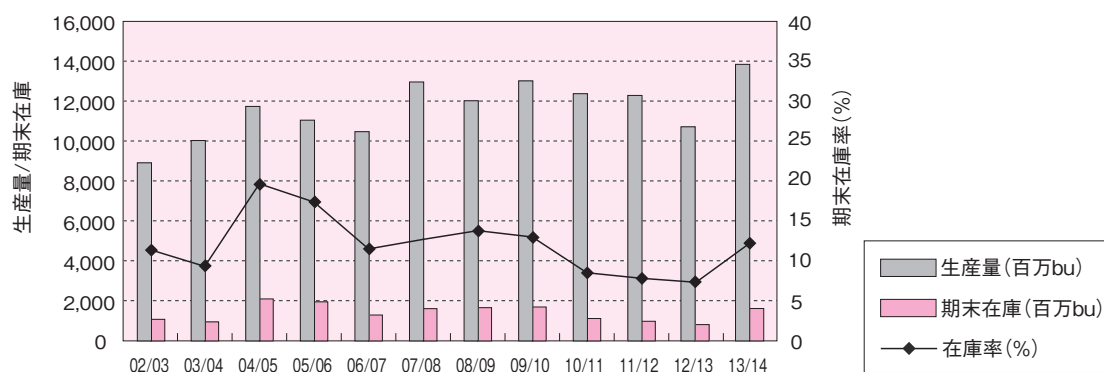
今回の取材を通して、雅秀さんが代々受け継がれる堅実な酪農経営をしっかりと引き継いでいってほしいと感銘を受けました。また、牛舎作業がスムーズに進行しているのは、雅秀さんが家族や従業員とのコミュニケーションを大切にされているからだと思います。

ご多忙の中、快く取材に協力していただきありがとうございます。柳楽牧場の今後ますますのご発展を期待申し上げます。

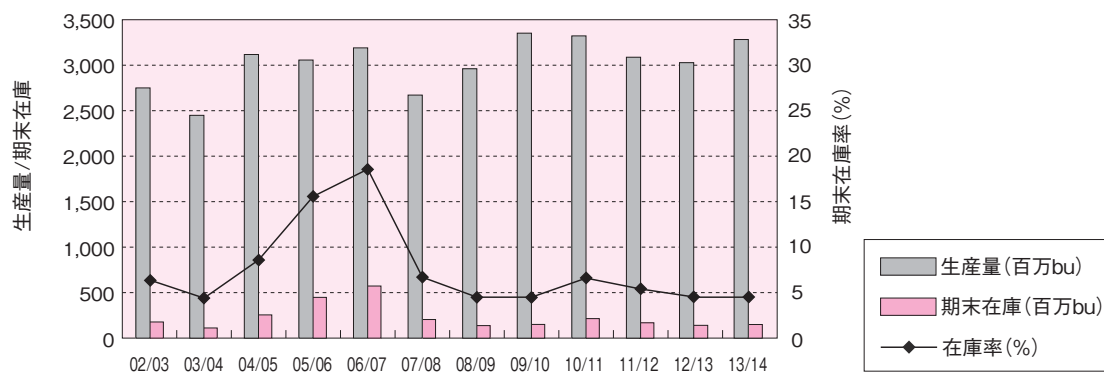
原料情勢 平成26年1月

1月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4(123.4) bu/エーカー、生産量107億8,000万(107億8,000万) bu、総需要量111億1,100万(111億800万) bu、期末在庫8億2,100万(8億2,400万) bu、在庫率7.4(7.4) %。
	【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.3百万) エーカー、単収158.8(160.4) bu/エーカー、生産量139億2,500万(139億9,890万) bu、総需要量131億5,000万(130億5,000万) bu、期末在庫16億3,100万(17億9,200万) bu、在庫率12.4(13.7) %。
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は、未承認GMO品種混入による中国の米国産トウモロコシ輸入拒否等の問題から420¢台まで値を下げたが、単収減による在庫率低下により現在は430¢まで回復している。今後の需給予想は、米国産は豊作だが、現在生育中のアルゼンチンにおいて高温乾燥気候が続いており減産が見込まれること、米国産の来クロープでの作付面積の減少が予測されることから相場の上昇に注意が必要。中国の米国産輸入拒否の今後の動きにも注視したい。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の13/14年見通しは、生産量・需要量が同程度増加し、期末在庫見通しは1億5,000万(1億5,000万) bu、在庫率4.5(4.6) %とほぼ変わらない結果となった。シカゴ大豆相場は、南米の天候改善で一時期軟調に推移したが、中国の旺盛な需要を背景に値を戻しているため、輸入大豆粕は強含み、国産大豆粕価格も為替が影響し値上げとなる水準で推移している。国内需給については、生産量・需要量ともに大きな変動は見られない。一時期入船遅れで不安定になった受け渡しも、現在は落ち着いてきている。
糟糠類	フスマの発生量・需要量は大きく変動していない。需給は若干締まっているが、輸入ふすまも入船しており、受け渡しは落ち着いている。グルテンフィードの代替として配合割合が増加すれば、一部の港では受け渡しが不安定になる可能性あり。グルテンフィード発生量は、ピークを過ぎ減少傾向。値上がり後も使用量はさほど減少していないことから、需給は締まったままであり、港によっては受け渡しが不安定。今後も輸入品が積極的に手当てされる状況ではないため、需給は締まった状態が続くと思われる。
海上運賃	原油相場は、雇用統計の改善、量的緩和の縮小など米国経済が上向きなことから上昇基調。海上運賃は、年末年始にかけて鉄鉱石の値動きが鈍化したことから軟調に推移しているが、米国産穀物の需要が堅調なこと、南米産が新穀期を迎えることから、今後上昇する可能性があり注意が必要。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成26年1月

北米コンテナ船 フレート	1-3月分のBAF（燃料費調整係数）は、多くの会社で\$10の値下げ。1月からのGRI（基礎レート）値上げ予定は、大半の会社が2月実施に延期している模様。どの船会社もコンテナ部門の採算悪化が続いており、今後も海上運賃は強含みの予想。PSWのロサンゼルス/ロングビーチ港では船腹スペースに余剰感があったが、アジア向けの穀類のコンテナ積みが増加しているため、タイトになってきている。また、シャーシの無料貸出を停止する船会社は増えている模様。PNWでは輸入量が輸出量に追いついておらず、引き続き空コンテナは不足している。降雪や路面凍結によるコンテナ搬入の遅れが発生しやすいため、デリバリーの混乱にも注意が必要。
米国の乳価動向	昨年13年は年間を通して、以前より高い価格帯で推移した。乳製品の相場価格が堅調に推移していることが背景にあると考えられる。米国の乳価動向や酪農情勢が輸出向けアルファルファの価格・情勢に影響するため、今後も注意が必要。
ビートバルブ	【米国産】砂糖の相場価格が低調に推移しており、かつ作付の遅れによる単収減が予想されることから、13年産の作付面積・生産量は前年比5%減の見込み。生産量が減少している欧州からの引合いも強く、産地価格は堅調に推移している。 【中国産】13年産作付面積が減少し、生育中の天候も良くなかったため、生産量は前年比25%減と伝えられている。韓国と日本向けの輸出数量は限定的になる見込みで、買付けを断念せざるを得ないような今までにない高い価格提示もあるようで、他産地ほど生産量が減少していない米国産へ切り替えることも有益と思われる。
アルファルファ ファヘイ	13年産は、どの産地も雨当たり被害が多く、例年では考えられないような悪い作柄となった。現在、カリフォルニア州中央部およびネバダ州北西部周辺では早魃傾向にあり、放牧用の牧草の生育にも影響が出ている。そのため、肥育農家から乾牧草の引合いが強まっており、産地価格も上昇傾向にある模様。
チモシー	【米国産】主産地のコロンビアベースンとエレンズバークでは、1番刈収穫時期の6月中下旬にあった降雨の影響で8～9割の雨当たり被害が発生し、“史上最悪な厳しい作柄”となった。ハイグレード品の確保は極めて困難な状況。また、10月出港分から屋内くん蒸費用を加算しており、費用対効果のある価格帯ではなくなっているため、他草種への移行も視野に入れる必要があると思われる。ローグレード品でさえも韓国向けに多く出荷されているため、作柄の良し悪しに係わらず“儲かる”農産物として産地では定着しており、14年産の作付面積はさらに増えることが早くも見込まれている。 【カナダ産】主産地のレスブリッジとドライランドの1番刈は収穫時期に降雨が発生しており、ハイグレード品の発生は限定的。カナダ産も作柄は悪く、産地価格は手の届かないところまで高騰しているのが現状。米国産同様に他草種への移行を検討する必要があると思われる。生産コストに対して高く売れており、小麦やキャノーラなどの穀類の相場価格が一時期に比べ軟化していることから、14年産の作付面積は増えることが予想されている。
スーダン	【インベリアルバレー産】1番刈は、収穫前に暑い気候が続いたこともあり、茎サイズにバラつきがあり、予想以上に茎細品が少ない模様。早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅蒔き（アフターウィート）は、例年より早く7月中旬から湿度が高くなり始めたため、茶葉混じりのスタックが多く発生した。茎細品のプレミアム品や、きれいなスタックの発生が少なかったことから、13年産は茶葉混入が目立つローグレード品を除いてほぼ売切れの模様。デュラム小麦の相場価格が軟調に推移していることから、14年産は早播きの作付面積が増えると予想されているが、インベリアルバレーの農業用水の使用制限について、昨年に引き続き今年も実施強化が懸念されることから、作付面積が減ることも一部では予想されている。
クレイン グラス	インベリアルバレーの12/15時点での作付面積は前年対比107%。生育期と収穫時期に暑い時期が続いたことにより、1、2番刈は良品の発生が多かった。3～4番刈は色あせが目立つスタックの発生もあったものの、良品も発生している。産地価格は、韓国向けの引合いが弱めに推移していたことも受け、前年よりも少し軟化している。科本科牧草の中では割安感もあるため、チモシーやスーダングラスからの切り替えも有益であると思われる。スーダングラス同様に農業用水の使用制限について実施強化も懸念される一方、クレイングラスは多年草で刈取回数も多いことから、生産コストに対して収入が安定しているとの考えられるため、14年産作付面積の推移は予想が難しくなっている。
バミューダ	インベリアルバレーの12/15時点での作付面積は、前年対比95%。年々上昇している種子価格は引き続き高値で推移しており、13年産では牧草よりも種子の生産意欲が強まっている模様。
ストロー類	13年産の米国産ストロー類について、雨当たり被害はほとんど発生していない模様。韓国では自給飼料の作柄が良いことや、米国産チモシーやオーツヘイのローグレード品へ需要が移行していることから、米国産ストロー類の引合いが思ったほど伸びていないとも伝えられている。産地価格に影響があるか、今後の動向には注意が必要。
オーツヘイ	13年産は、どの産地も11月までに収穫が終了。西では5～6割、南では3～4割、東では2～3割の雨当たり被害が発生している。生育中に降雨があったため、雨当たりを逃れたスタックでも分析値はあまり良くない傾向。大半が軽い雨で済んでいるため、見た目がきれいな中間・ローグレードが多く発生している。輸出向けの生産量は例年比1.5倍と予想されているため、中間以下のグレードが多く発生していることが伺える。ハイグレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移している模様。豪州ドルの動向次第だが、チモシーやスーダングラスから切り替えて使用することも有益であると思われる。また、12年産はほとんどがハイグレードだったこともあり、在庫を繰り越して13年産のハイグレード不足分を補おうとするサプライヤーも見受けられる。一方で、繰越在庫が少なく、中間グレードをハイグレード品として売る可能性もあるため、買付け時には注意が必要。

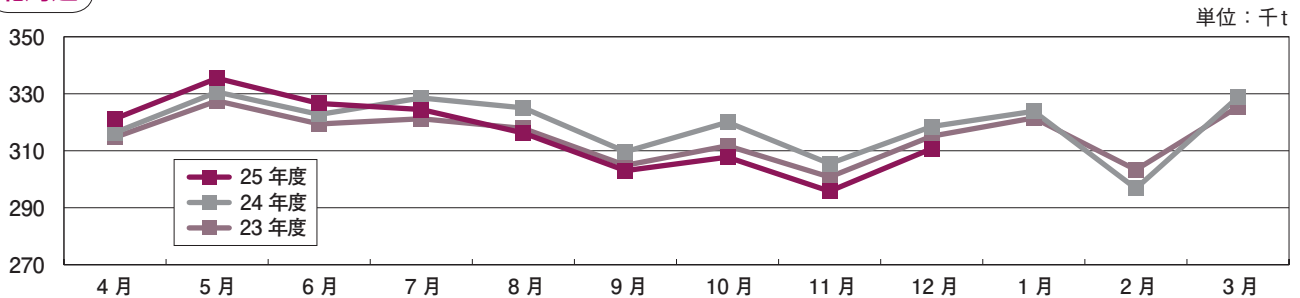
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

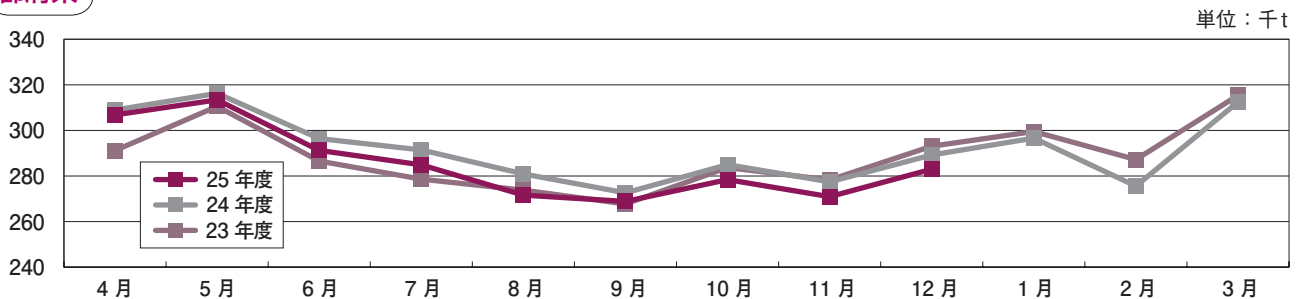
全国 593,733t で、前年同月に比べ 14,006t(2.3%) 減少した。
北海道 310,744t で、前年同月に比べ 7,766t(2.4%) 減少した。

都府県 282,989t で、前年同月に比べ 6,239t(2.2%) 減少した。

北海道



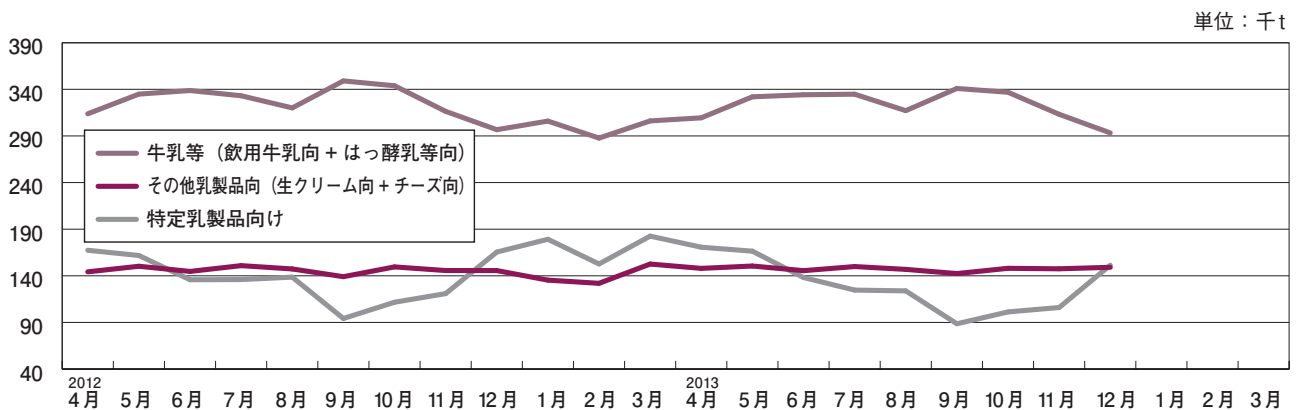
都府県



用途別販売数量

飲用向 255,790t で、前年同月に比べ 3,447t(1.3%) 減少した。
はっ酵乳向 37,453t で、前年同月に比べ 9t(0.0%) 増加した。
クリーム向 113,735t で、前年同月に比べ 6,227t(5.8%) 増加した。

チーズ向 35,389t で、前年同月に比べ 2,707t(7.1%) 減少した。
特定乳製品向 151,365t で、前年同月に比べ 14,087t(8.5%) 減少した。



各地の需給動向

*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

【仙台】12月の生産は前年比98%。日量的に見てもほぼ横ばい傾向で伸びて来ない印象。一方で需要は前月と比較しても堅調となり、特に西日本の需要に引っ張られ東日本も含め3連休までは逼迫気味となった。飲用牛乳向け100.6%、特定乳製品向け87.2%となった。

【関東】生産は、上旬から下旬にかけて、少しずつ日量回復。12月全体で前年比98.2%。需給は学校給食の終わる20日まで逼迫した。飲用牛乳向けは100%、特定乳製品向けは95.8%となった。

【東海】生産は引き続き日量横ばいで、前年比は98.3%。飲用牛乳向けは前年比95.9%、特定乳製品向けは100.9%となった。

【近畿・中国・四国】12月の生産は、急激な寒さ等の影響からなかなか増えて来ず、近畿96.9%・中国97.6%・四国95.9%。需要は、11月末からの処理増が続き、12月も学校給食が終わるまで各社逼迫傾向となった。(飲用牛乳向け前年比：近畿97.5%、中国97.1%、四国100.4%)

【九州】12月の生産は、前年比97.7%。需給は月初めより20日ごろまで逼迫が続いた。飲用牛乳向け前年比は97%、特定乳製品向けは96.5%となった。

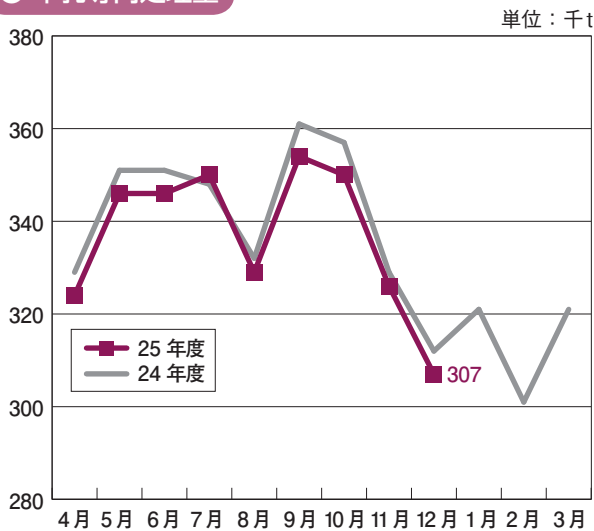
用途別生乳処理量

単位：千t

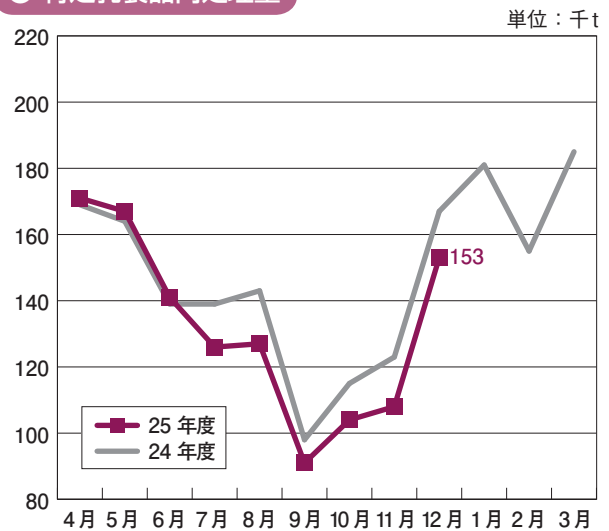
年月	生乳 生産量	用途別処理量計							年月	生乳 生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向		特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向					牛乳等向 ①	乳製品向		特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向		
			クリーム向 ③	チーズ向 ④		クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③				チーズ向 ④					
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	8月	608	603	329	274	127	147	107	40
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	9月	593	588	354	235	91	144	107	37
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	10月	608	604	350	253	104	150	109	40
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	11月	588	583	326	257	108	149	111	38
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	12月	616	612	307	305	153	151	114	37
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	2014. 1月								
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	2月								
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	3月								
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	年度計	5,605	5,562	3,032	2,530	1,188	1,342	977	365

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

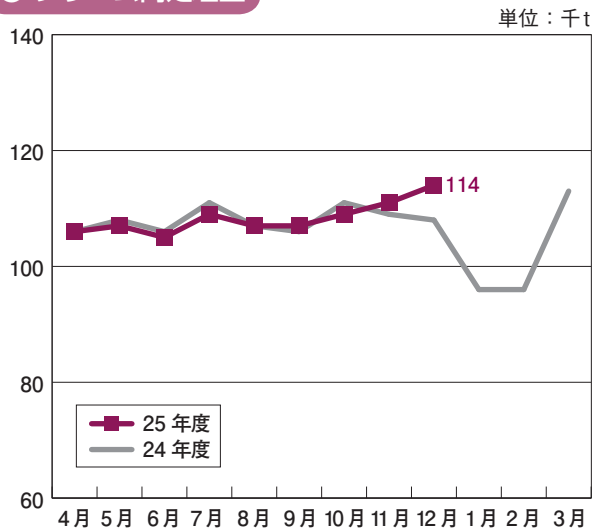
① 牛乳等向処理量



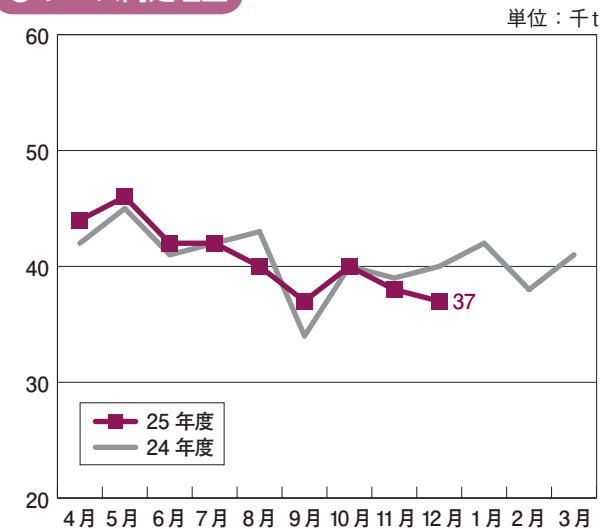
② 特定乳製品向処理量



③ クリーム向処理量



④ チーズ向処理量



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

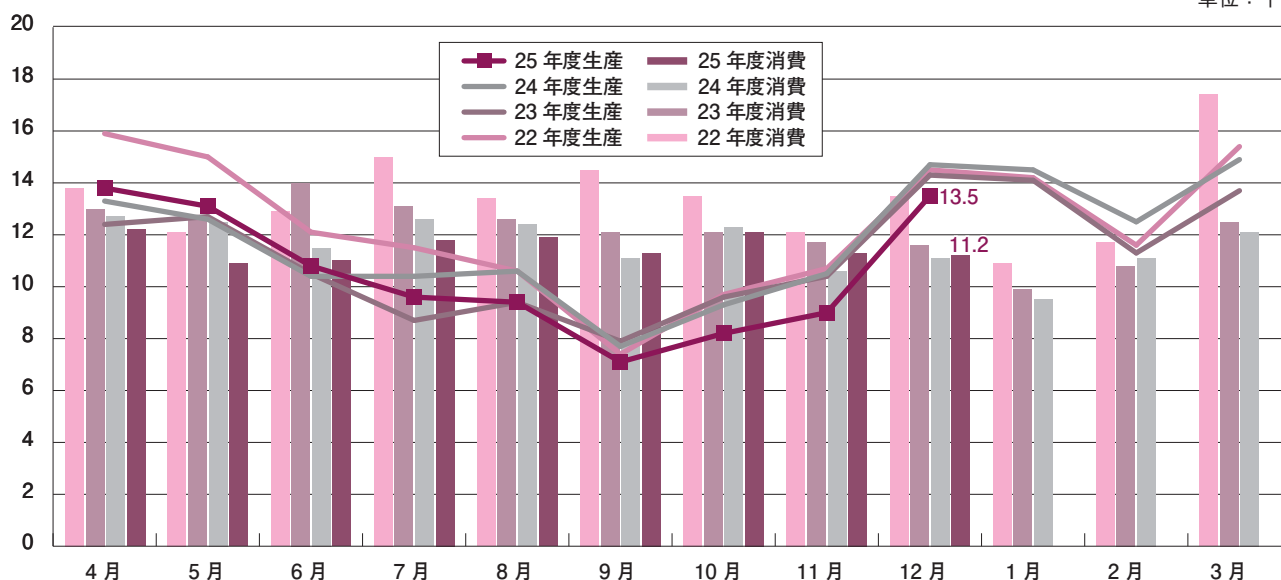
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	10.9	7.0	5.5
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	11.0	5.7	5.8
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月	9.6	11.8	5.1	5.8
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月	9.4	11.9	5.1	5.7
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月	7.1	11.3	3.6	5.0
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月	8.2	12.1	3.9	5.5
11月	10.5	10.9	4.8	5.7	11月	9.0	11.3	4.2	6.2
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月	13.5	11.2	5.5	7.3
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月				
2月	12.5	13.9	6.3	6.5	2月				
3月	14.9	17.7	7.4	8.7	3月				
年度計	141.4	148.5	70.1	76.7	年度計	94.5	103.7	47.1	53.0

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

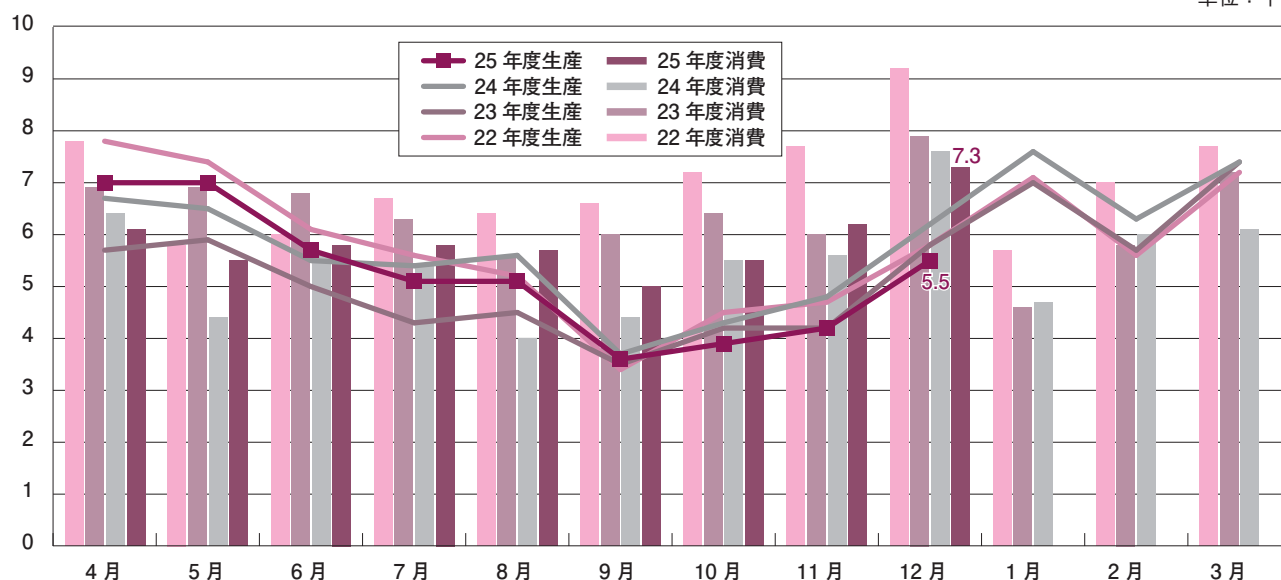
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

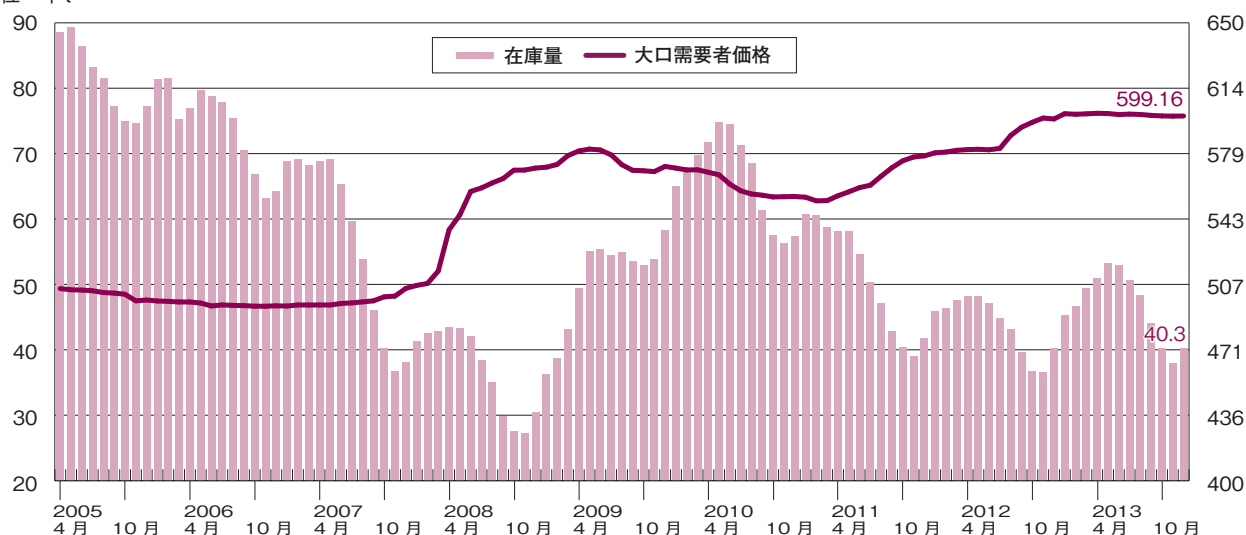
区 分	バター		脱脂粉乳		区 分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	25.0	1,177	50.7	600.19
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	24.5	1,178	48.3	600.00
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月	23.0	1,178	44.1	599.50
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月	21.4	1,177	40.3	599.20
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月	19.4	1,178	38.0	599.09
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月	17.6	1,178	40.3	599.16
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	206.8	10,599	418.9	5398.25

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

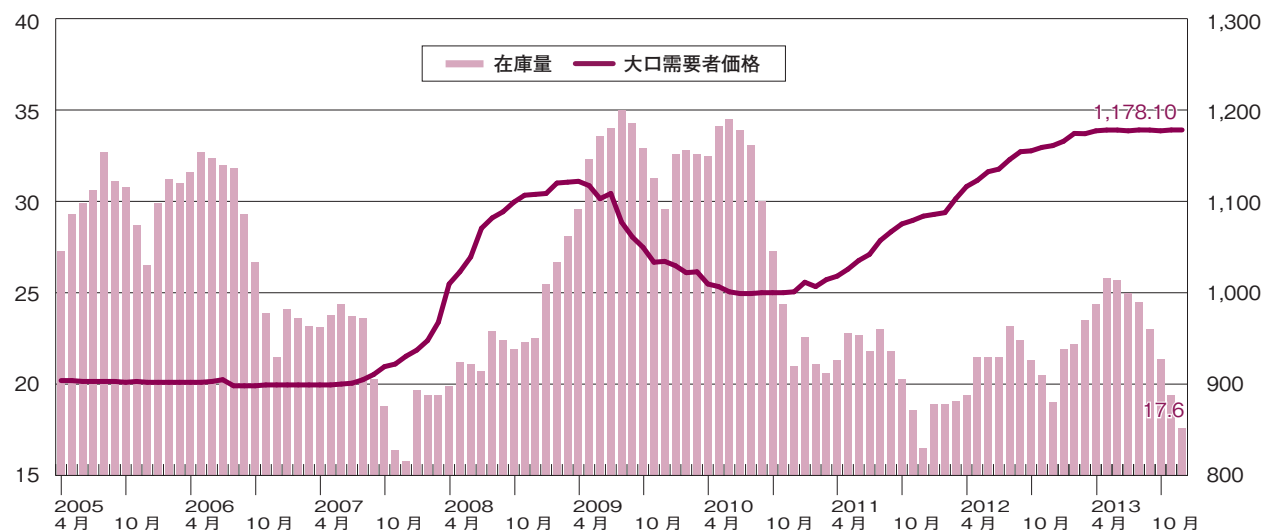
単位：千t



バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

単位：千t



平成25年度研修会

「婚活、牛乳の未来について考える」

1月16日(木)～17日(金)の2日間、全酪連本所相鉄田町ビルにおいて、全国酪農青年女性会議(大井幸男委員長)の平成25年度研修会が開催されました。この研修会は毎年1月に全国酪農青年女性会議役員・委員・顧問計19名を対象にテーマを決めて開催されているものです。

1日目は、全国酪農青年女性酪農発表大会にて意見・体験審査員も務められている全国地域結婚支援センター代表理事

板本洋子講師をお迎えし、婚活についての講演を行いました。

(農業)に誇りを持てる」といった事が挙げられたそうです。

▲婚活について皆で考える

◀板本洋子講師

現在の婚活事業は、①登録制の個人的な紹介、②結婚相談員による紹介、③出会いイベントによる個別紹介の3タイプがあり、都道府県行政も31県、過去に実施した県も合わせると33県実施している事業です。しかし、成婚率は①タイプでも8～9%と、成果としては芳しくないのが現状。そんな中、最近では「成婚」という目標から「副次的成果」への重視が高まっているそうです。具体例として、ある農協が発表した婚活事業の成果として、

「農業を一般の方に知ってもらう」「身なり・行動に気を付けようと自身が気付く」だけでなく、「喜んで体験する方を見て、作業を教えることで、自分の仕事

また、周囲の支援方法としては、共感・想像が大事とのこと。独身の方を集めて、「コミュニケーション方法」講座をすることも効果はありますが、本人が必要を感じていない場合は効果が薄い可能性があるとのことでした。自分の価値観、結婚の理想を押し付けず、本人の気持ちに立つて信頼関係を築き、一緒に考える姿勢が必要とおっしゃっていました。

2日目は、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会の河野顧問を講師にお迎えし、俯瞰的に牛乳を捉えるべく、食料全般から見た牛乳の位置を知り、今後の課題を知る機会を作りました。

日本の食料自給率はカロリーベースで39%、水産業就業者は22万人を割り、25歳以下は約6,000人と減少しています。

日程	講演内容
1/16(木)	講演①「婚活の現状と新たな視点」 全国地域結婚支援センター 代表理事 板本洋子氏
1/17(金)	講演②「食を取り巻く諸問題」 ー「食」を巡る現状と今後10年の課題ー 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 顧問 河野栄次氏

◀河野栄次講師



食品業界は国内マーケットにおいて伸び悩み、企業再編が進んでいる状況です。また、消費者も大震災、原発事故により経済性志向に変化し、小容量・低価格の流れが強まっています。

そのような中、牛乳は原価が高いため他製品と比較してCMなどの宣伝が打ちにくく、多種多様な飲料に押され、消費量も年々減少しているのが現状です。10年後も牛乳が生き残るための取組みとして、「牛乳を飲物としての努力が必要」と提案されていました。食生活の中で乳製品の位置を上げる取り組みをすることで需要を広げ、かつ飲料としても消費してもらうべく、パステライズ化し地域で消費してもらう等の工夫も必要ではないかと話されていました。

その後、参加者からの意見を募ったところ、「学校給食の容量を200mlから250mlへ増やす」、「ミルク餅などの牛乳レシビで「食べる牛乳」の意識づけをする」等、様々な意見が飛び交いました。どちらも将来の酪農業界を考えていく上で重要な視点であり、皆で将来の酪農業界について熱く議論する姿が印象に残る研修会でした。

「愛牛を大切にしたい、その想いをささえます」

2013-14

挑戦

Challenge

ハイパフォーマンスに



Your Partner 全酪連

人事異動

新	旧	氏 名
■平成26年2月1日付異動発令 酪農部 酪農企画課長 札幌支所 総務課長 兼 指導組織課長 名古屋支所 総務課長代理 大阪支所 次長 兼 酪農課長 狭山工場 次長 兼 製造課長 ■平成26年2月17日付異動発令 購買部付外向 石巻飼料(株) 所場課長待遇 ■平成26年2月1日付昇格発令 福岡支所 南九州事務所長 狭山工場 総務課長 購買部付外向 (株)日本ミルクプレイサー 所場課長代理待遇	札幌支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長 名古屋支所 総務課長 東京支所 総務課 副審査役 酪農部 酪農企画課長 大阪支所 次長 兼 酪農課長 福岡支所 南九州事務所長代理 狭山工場 総務課長代理 購買部付外向 (株)日本ミルクプレイサー 副審査役	中山 充 坂口 雅史 柳 館 真次郎 津田 知 亮 大木 高明 松 島 啓 二 坂 本 敬太郎 松 下 裕 伊 藤 正 徳

平成26年

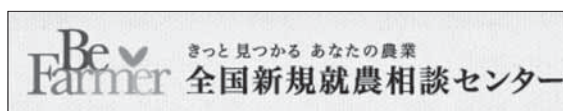
各地域酪農青年女性(婦人)会議 及び 全国酪農青年女性酪農発表大会

発 表 大 会	開 催 日	開 催 場 所
第42回北海道酪農青年女性会議酪農経営発表大会	3/27(木)	札幌市中央区北5条西7丁目2-1「京王プラザホテル札幌」
第43回東北酪農青年婦人会議酪農発表大会	3/24(月)～25(火)	山形県上山市葉山5-20「古窯(こよう)」
第43回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会	3/24(月)～25(火)	栃木県那須郡那須町大字高久丙1番地「ホテルエビナール那須」
第43回中部酪農青年女性酪農発表大会	3/18(火)～19(水)	愛知県豊橋市藤沢町141「ロワジールホテル豊橋」
第45回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会	4/24(木)～25(金)	兵庫県洲本市小路谷20番地「ホテルニューアワジ」
第43回九州酪農青年女性酪農発表大会	4/17(木)～18(金)	佐賀県武雄市武雄町武雄4075-13「武雄センチュリーホテル」
第43回全国酪農青年女性酪農発表大会	7/17(木)～18(金)	宮城県仙台市青葉区中央1丁目1-1「ホテルメトロポリタン仙台」

新規就農を希望される方、経営委譲を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。
全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ ➡ 右下リンク ➡ 新規就農情報〔社酪農ヘルパー全国協会〕
新規就農情報〔全国農業会議所〕

北海道 乳牛産地情報

平成26年2月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲.....強含み ▼.....やや強含み →.....横這い ◆.....やや弱含み ↓.....弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~34	▲	1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計96.7%、累計で97.7%。苫小牧管内月計で98.2%、累計で96.6%の実績。2月の初妊牛動向ですが、4月分娩が中心になる事により道内及び都府県からの需要が多くなることが見込まれ、和牛授精を中心にやや強含みの相場になるものと思われます。育成牛につきましても、夏前に授精できる育成牛を中心にやや強含みの相場になるものと思われます。
	初妊牛	52~57	▲	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	28~35	→	1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計95.7%、累計で98.8%。中標津管内月計95.7%、累計で97.1%の実績。2月の初妊牛動向について、中標津管内の資源は平年並み。釧路管内の資源は例年より減少しているようです。2月は通常4月腹中心で動きませんが、資源が豊富ではないため荷動きも早く既に5月~6月腹も購買している状況です。ホルズ腹は昨年末の相場と違い、地元酪農家の購買等で相場を底上げ、全体の価格を押し上げている状況です。F1腹の購買が集中しているため、価格幅の柔軟な対応が必要となります。
	初妊牛	53~57	▲	
	経産牛	45~47	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で100.2%、累計で100.2%の実績。2月の初妊牛動向につきまして、年末から3月腹が多く動いたことから、荷動きが早くなっており、4月中旬から5月上旬を中心に動くことが予想されます。また、F1腹を中心に購買が集中するため、価格は強含みで推移するものと思われます。ホルズ腹もF1腹に比べて若干価格は安めではありますが、評価によっては50万円台中盤の価格で取引されております。
	初妊牛	54~59	▲	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	28~35	→	1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計97.0%、累計で99.1%、北見管内月計98.8%、累計で99.1%の実績。2月の初妊牛動向については、新年早々からの購買により荷動きが激しく、3~4月腹を中心に価格も急騰しています。特に4月のF1腹は、どの地域でも資源が乏しく5月~6月腹にシフトせざるを得ない状況になりそうです。管内農協の生乳生産量の確保に伴う乳牛購買と重なり、更なる価格の上昇も考えられます。今後、初妊牛の購買頭数が増加すると思われますが、5月F1腹はまだ購買対応ができますので、早めの購買計画をお願いいたします。
	初妊牛	52~57	▲	
	経産牛	43~48	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	28~35	→	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は97.6%、累計で98.7%の実績。初妊牛動向については、1月の相場が予想以上に高騰していることもあり、2月は更なる高値が予想されます。これは、道内の生乳生産状況から道内での購買需要も高く、また4月分娩が少ない状況のため、F1腹を中心に荷動きが活発化しているためです。5月分娩牛の資源は比較的好いとの情報もありますが、資源の荷動きが激しく、価格も変動しやすい時期ですので、価格幅を持って注文頂きますようお願いいたします。
	初妊牛	54~59	▲	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

いい匂いの草だな

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で応募いただいた「いい匂いの草だな」(岐阜県 嶋田 均氏 撮影)です。何気ない給餌の風景ですが、ぼかしが入ることで、とても良い味が出ています。なぜか、ずっと見ていたくなる作品です。



▼3月中旬から開催される各地域酪農青年女性(婦人)会議の日程を掲載しました。皆さんお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。
 ▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
 shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

編集後記



平成26年2月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 2月号 No.581

●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

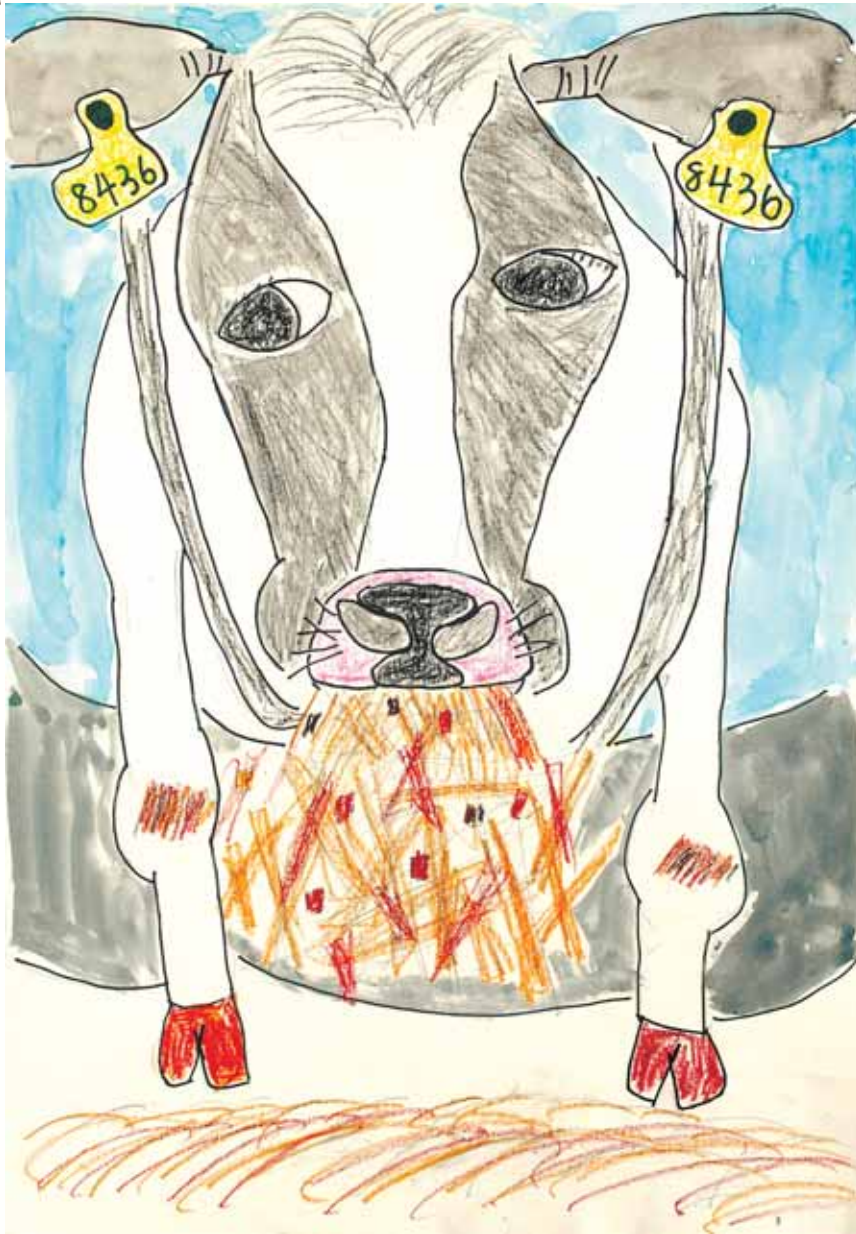
TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/

今月の

ら
く
の
う
こ
ど
も
ギ
ャ
ラ
リ
ー

入賞作品紹介



大好きな牛

山之口小学校(九州)5年 原田 清花



月の入選作品は、山之口小学校(九州)5年の原田 清花さんの「大好きな牛」です。

大好きな牛さんを正面から堂々と描いた作品です。食事をしている様子が臨場感豊かに伝わる秀作です。ペンや水彩絵の具、クレヨンなど複数の画材を上手に使って描いています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議